

スロラニ通信

NPO Srolanh Project

2015年

2015年2月活動報告臨時号



平成27年 3月25日発行
特定非営利活動法人
スロラニ プロジェクト
☎655-0049
兵庫県神戸市垂水区狩口台
4丁目31-505
srolanhproject@gmail.com
080-4766-0790(代表:飯塚)

「チョムリアップスオ」ご挨拶



桜の花が咲き始める季節になりました。皆様お元気でお過ごしでしょうか。NPO 法人スロラニプロジェクトもお陰様で少しずつご支援の輪が広がっていることを実感しています。活動の内容も「スロラニ小学校継続支援」「障がい児支援」「歯科支援」「命の授業(救急救命)」「井戸建設支援」に集約され充実してきました。2月20日~2月25日メンバー6名と応援の若者3名の9名でカンボジア王国シェムリアップ州に行ってきました。以下そのご報告をそれぞれの担当からさせていただきます。

(NPO法人スロラニプロジェクト代表 飯塚由美子)

See you again (2015. 2月の活動を終えて)



できあがったばかりのスロラニプロジェクトのTシャツを関空で受け取った。new スロラニ Tの背中には、活動内容が英語で記されている。そこに「Dental checkup+tooth brushing instructions」とはっきりプリントされているではないか。歯科担当として、うれしくもあり、重くもある。そんなTシャツをメンバー全員が着用しての2月の活動は、ボクにとって3回目。スロラニのメンバーの中に歯医者がいるということは、現地でも認知されつつあるようだ。

スロラニ歯科部として、ブラッシング啓蒙活動(教育支援)、ハブラシ配布(物資支援)、歯科治療の提供(歯科医療支援)を3つの柱として支援をしたいと考えている。自分が参加できない時でも、できることをメンバーにやってもらうように働きかけることも大切だ。また、自分自身のスタンスとして、持ち場を守る、ということ常意識して、歯科セクションの責任者として頼られる存在を目指している。だけど、継続が何より重要なので、続けるためにもがんばりすぎない、というのもテーマのひとつだ。全力疾走ではなく、まわりの風景も楽しみながらのジョギングくらいのほうが、長く走れるから。

今回の活動も、そういった方針で臨んだ。各イベントで、歯科部としてできることは何だろう、と考えて、それなりに準備をして。歯科支援に時間を与えてもらっていたので、その中でいかに喜んでもらえるか、役に立てるか、と考えるのは、やりがいがある。もちろん、プレッシャーもあるけど、みんな協力してくれるから、そこがまた楽しい。

歯にトラブルを抱えている人は多い。歯科治療を受けることが容易ではないという事情もあるし、知識がないということもある。だからこそ、歯を大切にしようね、というアプローチは必要だ。そしてその声かけは歯科医じゃなくても、誰だってできる。家庭におけるしつけのひとつだから。むしろ、素人のほうがわかりやすく伝えられるかもしれない。

パペットを使った歯みがきの話は、ボクではなく、他のメンバーにやってもらうことにしている。一緒に活動に参加して、自分に何ができるかなあ、何も



できないよなあ、などと控えめになっている人がいたら、そういう人が適任だ。自分の言葉で、小学校や孤児院や集まってきた村人たちの前に立って表現してもらおう。今回も若手メンバーに断れない雰囲気をつくって託した。すると、どう見てもボクよりうまかった。そういうものである。

スロラニ小学校では歯垢染色液を用いたブラッシング指導を行った。ここでも人手が必要だ。ハブラシや紙コップ、手鏡を配って、一人ひとりに綿棒で赤い液を塗るのを効率よくやるには、手分けしてやらなければならない。難しいことではないので、みんなにやってもらう。参加メンバーにとっても、いい思い出になるんじゃないかな。メンバーにチームとしての一体感も生まれるし。



継続支援をしている障がい児や孤児院の子たちにはできる限り歯科医療支援も提供したい。半年に一度でも歯石除去をすることで口の中の様子は変わる。長く患っている歯を抜くだけで、とてもすっきりすることもある。国際支援でありがちなゆきずり診療ではなく、経過をみることができるといい(決してゆきずり診療を否定しているわけではありません、念のため)。

スロラニ小学校のあるコムルー村、井戸支援をしているバンゴア村では、何名か希望する人の歯を診せていただいた。ボクが歯科医療サービスを提供することで団体がその村で活動しやすくなればと思う。喜んでもらえてこそその支援活動だ。互いにいい関係を保って、できる限りフェアなやりとりをしたい。少なくともボクは村に行き、彼らから多くのものをいただいている。笑顔はもちろんだけど、そこに行くだけで、五感がふるえる。見たことがない光景を見て、聞いたことがない音を聞いて、嗅いだことのないにおいを嗅いで、あたたかな空気を肌で感じて。かけがえのない経験をさせてもらっている。



孤児院をあとにする時、少年から、「See you again!」と声をかけられた。そう、再び会おう。また、ここで。(終) 歯科医師:大森茂樹

「命」の授業…救急救命講習会報告



孤児院センター年長者の救急救命講習について、将来デイサービスの療育などを行っていくための教育の一環として、通所者の不慮の事故や急病に対する知識と技術を学んでもらうための講義として少し深く入った実技講習を実施し、繰り返し学んでもらうための第1回目の講習とした。



初めての受講ではあったが、命の大切さはもちろんのこと、心臓突然死についての理解力もよく、実技(胸骨圧迫)でも、最初は戸惑いもあったが、圧迫の「正しい位置」「正しい強さ」「正しい深さ」を身に付けることができた。今後は、継続的に心肺蘇生の実技を実施し、併せて良き指導者となるべく、知識と技術を身につけてもらい、現在、孤児院で行っている、デイサービスや孤児院を退所し、自立して社会に出たときに役に立つ人材育成を図ってきたい。

バンゴア住民にあっては今回で2回目ということもあり、1年のブランクはあったが前回の受講者はスムーズに講習に参加されていた。ただ受講者が老若男女合わせて約60名の受講者で、通訳を入れての指導者1人の指導には限界があると感じた。



これからの救命講習指導について、孤児院での救命講習は継続して行い、村人に対する指導には限界があり、第3回4回と回を重ねて行くよりも、これからのカンボジアを背負っていく子供たちへの指導、例えば、コムルー村の学校やバンゴア村の学校の教諭や概ね日本で言えば5年生以上への指導を実施できれば考える。また、教室を利用できるのであれば、視聴覚機材を使っただけの講習も視野に入れ指導に務めなければならないと考える。救急救命士:高橋茂樹

第2回スロラニユ障がい児デイサービス報告



- ① 代表の挨拶とデイサービス説明
- ② 3匹の子ぶたの人形劇
- ③ みんなで手遊び歌
- ④ 自由遊び、順番に動作法と歯科検診
- ⑤ 入浴支援
- ⑥ 昼食
- ⑦ 終りの言葉



学校にも病院にもほとんど行けない障がい児とその家族、特に母親にとって我が子に対する将来の不安は大きい。障がいの知識や動作法等、我が子にどう接すれば良いか分からない母親がほとんどだと思う。そんな中でデイサービスを行うことは、外に出かける機会のほとんどない障がい児が、沢山の友達と一緒に活動する貴重な経験になり、母親の不安やストレスを少しでもやわらげることが出来たのではないかと思う。2回目となったデイサービスなので、母親同士の会話ははずみ、それこそがこの活動のねらいである。今後、家庭への訪問支援を基本として、デイサービスは年2~3回実施することが望ましいと感じた。(須藤)



第2回スロラニユ運動会(スロラニユ小学校)



- ① 代表の挨拶と競技の説明
- ② 校歌斉唱・校長先生の話
- ③ 玉入れ
- ④ バランスボール転がし
- ⑤ 体操服贈呈・水分補給
- ⑥ バランスボール運び
- ⑦ 綱引き
- ⑧ 参加賞配布(ノートと鉛筆)



第2回スロラニユ運動会を2月22日午前中に行った。子ども達約100名と先生方そしてメンバーとボランティアが集合した。昨年经验したこともあり、なんとなく雰囲気は理解できているようであった。

昨年同様、ざっくりと男の子と女の子チームに分かれ、各種目を競い合った。みんな、競い合うことが大好きで、玉入れでは、ボランティアの若者が持っているかごに、一生懸命手作りの球を投げている。年少児はなかなかかごまで届かないようであったが、それでも楽しそうに投げている。バランスボールころがしは、初めての競技であったが、呑み込みもよくスピード感たっぷりの楽しい競技であった。

途中休憩を入れ、NPO法人こころとからだの発達サポートシステム 代表の中野氏ほか7名の方たちから体操服を寄贈して頂くセレモニーを行った。翌日学校を尋ねると、さっそく着用している子ども達の姿があった。

そして、いよいよ綱引き!! プログラムをアナウンスした途端、子ども達から喜びの歓声がわきあがった。実は、昨年の運動会の数か月後に、「学校の生徒たちと村人で綱引き大会を実施したいから綱を貸してほしい」と連絡があったほど、子どもから大人まで大好きな競技である。全員、持っている力を出し切った

第2回運動会は怪我もなく無事終了。参加賞のノートを1冊ずつプレゼントし、心地よい疲れを感じながら、次のプログラム『ブラッシング指導』の準備にとりかかった。

(代表: 飯塚)

